■掲載記事

資料⑨

2024年10月16日	日刊建設工業新聞

2024年（令和6年）10月16日（水曜日）　日刊建設工業新聞

工事のみりょく写真展（13日、あ・ら・伊達な道の駅で）

大崎市の道の駅で

工事のみりょく写真展開幕

東北建設マネジ技術協会

東北建設マネジメント技術協会（秋葉敬治代表理事）が広報活動の一環で実施する「工事のみりょく写真展」（共催・東北地方整備局）が11日に宮城県大崎市の「あ・ら・伊達な道の駅」スパイラルホールで始まった。会期は20日まで。

パネル展は、会員企業の社員らが撮影した道路や橋、トンネル、ダムなどインフラ整備に関わる作業風景や災害時に活躍する車両などを収めた66点もの写真を展示。長い首を伸ばした巨大キリンのように見える国内最大級700㌧つりのクレーン2台を使って重さ125㌧、長さ46㍍の橋桁をつり上げる作業シーンの写真パネルには「700㌧の重さはキリン500頭分」などと細かく説明文も付けた。

東北整備局の仙台河川国道事務所と北上川下流河川事務所、宮城南部復興事務所、東北技術事務所、東北道路メンテナンスセンターも協力した。

当日は子どもたちに建設業に興味を持ってもらおうと、塗り絵コーナーや北上川下流河川事務所が制作した絵本「流域戦隊チスイレンジャー」の読み聞かせイベントも併設。多くの親子連れでにぎわった。

■掲載記事

2024年10月16日	日刊建設通信新聞

あ・ら伊達な道の駅で20日まで開催

建設マネ技協らが写真展

東北建設マネジメント技術協会（秋葉敬治代表理事）は、20日まで宮城県大崎市にある「あ・ら・伊達な道の駅」のスパイラルホールで「工事のみりょく写真展」を開いている。

会場には、協会会員技術者が現場で撮影した築造中の橋梁上部工や電線共同溝内部、ライトアップされたダムのほか、国土交通省の橋梁点検車、土のう製造機といった「道路ではたらく車」「災害の時、活躍する車や機械」などの写真などを展示した。将来の担い手となる子どもたちとその保護者の関心を集めるように迫力あるラインアップとし、解説文も分かりやすいように工夫を凝らした。12日には、流域治水の取り組みを紹介する「流域戦隊チスイレンジャー」の紙芝居なども催し、大勢の家族連れでにぎわっていた。

写真展は、建設産業界のイメージアップと将来の担い手確保・育成を目的とした広報活動の一環で、東北地方整備局との共催により各地で開催している。今回は仙台河川国道事務所と北上川下流河川事務所、宮城南部復興事務所、東北技術事務所、東北道路メンテナンスセンターなどが協力している。

紙芝居を読み聞かせる整備局職員ら

資料⑨

■掲載記事

2024年10月16日	日刊建設新聞

日刊建設新聞 10月16日水曜日
2024年 第12063号
The Nikkan Kensetsu Shimbun

東北建マネ協会

工事の写真展が大盛況

― 20日まで大崎市で開催 ―

東北建設マネジメント技術協会（秋葉敏治代表理事）は11日から20日まで、あ・ら・伊達な道の駅（大崎市）で「工事のみりょく写真展」を開催している。国土交通省東北地方整備局の共催で、特に将来の地域社会づくりを担う子ども向けに建設機械などの写真パネルを多数展示。11～14日の4日間に計1752人が訪れるなど大盛況となっている。

写真展は建設産業界のイメージアップと、将来の担い手確保・育成を目的に、広報活動の一環として毎年開催している。入場は無料。特に子どもたちが建設産業に興味を持てるよう工夫を凝らし、塗り絵コーナーを設けているほか、12日は「流域戦隊チスイレンジャー」の絵本の読み聞かせも行った。

今回の写真展では「橋梁をつくる機械たち」や「トンネルをつくる機械たち」など働く車に加え、ダムのライトアップ、震災伝承、流域治水の取り組みなど、協会と国交省を合わせ66枚の写真を展示。去年までなかった新たな写真も用意した。

3連休初日の12日に取材すると、親子連れを中心に多くの人々が写真を見て建設産業への理解を深めていた。東京や福島などの友人と一緒に道の駅を訪れたという女性は「これまで単純に道路を通るだけだったが、その裏に（国交省や建設業の）努力があるということが分かった」と感動し、「孫たちも連れてきたい」と話していた。

北上川下流河川事務所流域治水課の渡辺昭光流域連携係長は、若手職員らと交代で絵本の読み聞かせを行い、チスイレンジャーたちが力を合わせて雨のモンスターを退治する物語を通して、子どもたちに「流域治水」の大切さを教えた。

渡辺係長はあらゆる関係者が協働で取り組む流域治水の推進に向け、「親子で絵本の話を聞いてもらい、家に持ち帰って話題にすることで理解を深めてくれたらうれしい」と笑顔を見せた。

11～14日の来場者数は、11日が70人、12日が363人、13日が694人、14日が625人だった。このうち子どもは469人となっている。

東北建設マネジメント技術協会企画委員会で写真パネル展の広報を担当している櫻井一司氏（スタッド取締役東北支店長）は「建設業界の人材確保を中長期的に目指す上で、お子さんに興味を持ってもらうために写真展を開催している」と述べ、より多くの人々が来場することを期待した。

工事の写真などを見て建設産業に理解を深める人々

絵本「流域戦隊チスイレンジャー」の読み聞かせを行う渡辺係長(右)

■掲載記事

2024年10月21日	建設新聞

東北建設マネジ技術協

“工事のみりょく”伝える

あ・ら・伊達な道の駅で写真展

東北建設マネジメント技術協会の主催、東北地方整備局の共催による「工事のみりょく写真展」が11日から20日まで宮城県大崎市の「あ・ら・伊達な道の駅」スパイラルホールで開催された。

建設業のみりょくを伝える写真展が開かれた

写真展は建設産業界のイメージアップと将来の担い手確保・育成を目的に毎年行っている。11日～16日までの6日間で2000人以上の来場者が訪れ、建設業の仕事への理解を深めた。

子どもたちが興味を示しそうなダムの施工現場やライトアップなどのイベント紹介、トンネルなどの工事現場や災害時に活躍する災害対策車両、工事の施工状況などを中心に、感動や関心につながりやすいパネルを展示。子どもや保護者に理解しやすくするため、読み聞かせしやすい説明文の表現方法も工夫されている。

このほか子どもたちに興味を持ってもらえるよう土日限定で塗り絵コーナーを設置したほか、12日は「流域戦隊チスイレンジャー」という紙芝居読み聞かせイベントを実施。戦隊が地域の助けを得ながら雨水モンスターを倒すお話で流域治水の重要性を解説した。

■掲載記事

2024年10月18日	大崎タイムス

2024年（令和6年）10月18日（金曜日）　大崎タイムス

建設業の魅力伝える

岩出山 工事写真展20日まで

工事中の写真やパネルを展示した写真展

建設業の魅力を伝える「きて！ みて！ わかる！ 工事のみりょく写真展」（東北建設マネジメント技術協会、東北地方整備局共催）が大崎市岩出山池月のあ・ら・伊達な道の駅スパイラルホールで開かれている。入場無料で、20日まで。

同協会加盟会社が東北6県で行ったダムやトンネル、橋梁建設などの工事写真49点を解説付きで紹介。同整備局も「働く乗り物」や震災伝承施設を紹介する写真やパネル19点を展示している。

連日多くの観光客らが訪れ、一点一点じっくり眺めたり、親子で建設車両の塗り絵に取り組んだりする姿が見られる。12日は北上川下流河川事務所が制作した「流域戦隊チスイレンジャー」の紙芝居も上演され、子どもたちは街の人々が協力して水害を防ぐ「流域治水」を楽しく学んでいた。

建設産業界のイメージアップや将来の担い手確保を目的に毎年県内外で実施しており、同道の駅で開くのは8回目。同協会の中野真哉企画委員長は「東北地方整備局の協力もあって、親子で楽しめる見応えある写真展になった。ぜひご覧いただき、建設業に憧れを持ってもらえれば」と期待していた。

展示時間は午前10時～午後4時（最終日は午後3時まで）。無休。問い合わせは同協会へ。電話022（342）1620。

化女沼の環境美化へ

下草刈りとごみ拾い

― 2000本桜の会 ―

大崎市古川の景勝地、ラムサール条約湿地の化女沼をサクラの名所にしようと取り組んでいる市民グループ「化女沼2000本桜の会」（佐々木哲朗会長）は14日、植栽地の下草刈りに汗を流した。次回は19日で、ボランティアの参加を呼び掛けている。また、16日は美化活動に取り組んだ。

2000年から活動を続けている同会は、これまでに3000本を超すサクラを植樹。併せて植栽地の環境も守ろうと、春から晩秋まで定期的に下草刈りやごみ拾いも行っている。

爽やかな秋晴れに恵まれた16日は11人が参加。植樹から25年目を迎え、幹の直径が30㌢以上に成長した木の周辺を刈り払った。19日は午前6時半から行う予定。

サクラ植栽地の下草刈りに汗を流すボランティア（14日）

時折小雨が降るあいにくの天気となった16日は桜の会、県大崎地方ダム総合事務所、大崎市建設課から合わせて18人が参加。草が生い茂る中も丁寧に探し、ごみを拾い集めた。

活動開始当初に比べ、不法投棄はだいぶ少なくなってきたという。それでも、今回も大型テレビ台や米びつ、衣装ケース、書類ケース、ビデオラック、棚板、一輪車用車輪などの粗大ごみが見つかり、ロープやトラックも使って収集。このほか可燃ごみ19袋、不燃ごみ3袋が集まった。